

上伊那音楽教育研究会

ハーモニー

第1号

令和8年6月19日

文責 唐澤・寺平

仰望の日 & 総会

1学期がスタートし、早いもので3ヶ月が経とうとしています。小学校では音楽会が行われるなど、各校の音楽活動が活発になってきている頃でしょうか。上伊那音研広報部では、今年度も定期的に「ハーモニー」を発行していきたいと思っています。よろしくお願いします。



5月20日（水）の「仰望の日」。上伊那教育合唱団として「新しい世界へ」「またね、」の2曲を歌い上げました。練習では伊那小学校の福田先生が指揮と指導をしてくださいました。福田先生のもつ和やかな雰囲気の中、歌を楽しみながら練習する先生方の姿があり、そこから音楽がどんどん面白くなっていきました。分からないところはパートで確認し合い、少ない練習時間の中でベストを尽くそうとする先生方の姿がありました。本番は、福田先生の指揮と正木先生の美しい伴奏と上伊那の先生方の歌声が重なり合い、すばらしい合唱を会場に響かせることができました。

【先生方からの感想】

- ・聴いている側も自然と身体が動いてしまうくらい、曲の世界観に引き込まれるステージでよかった。歌い手と観客とが一体となったステージで、聴いていて明るい気持ちになった。
- ・楽しそうに歌っている姿が素敵だった。
- ・「ほらね、」は、説得力のある歌声と歌詞のメッセージ性に心が掴まれ、引き込まれるステージでよかった。
- ・会場に歌声が響いていて、聴いていて鳥肌が立ちました！

会場全体で歌った「信濃の国」も会場が一体となり、改めて「歌っていいな」と感じる事ができた時間でした。

6月11日（木）発行の上伊那教育会情報「仰望」にも感想が載せられておりましたので、そちらもご覧いただければと思います。



午後は田中安茂先生をお招きし、合唱を通して子どもたちにどんな力をつけていくことができるのか具体的な方法を体験しながら講習を受けました。一つ一つの指導方法に意味があり、子どもの実態に合わせて力を伸ばせる内容になっていました。

そのうちの1つ、「ゲーム要素を取り入れながら授業を展開する方法」を紹介します。例えば、子どもたちが学習活動を終えて椅子に座る、という場面があったとします。教師が「それでは椅子に座ってください。」という指示を出せば生徒は椅子に座りますが、田中先生からここで待たされたがかりました。「これからジャンケンをして3回勝った人は椅子に座れます。」という指示がでます。突然の指示に先生方は戸惑いながらも、「ジャンケンポン！」とゲームを始めました。そして最後の先生が座り終えた時、先生方から自然に拍手が起こり、気づくと笑顔が溢れていました。相手と自然に楽しみながら繋がりをつくっていく、すてきな活動でした。

田中先生の講習を受けて感じたことは、音楽活動を行うにあたって、拓かれた心と、積極的な人とのつながりが大切だということです。裏声で低い音を出したり、動物の鳴き声のような声を出したりする際、「やってみよう！」と思う心や、相手が自分のことを認める環境がそろっているからこそ表現できると感じました。また、ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れることで、いろいろな人との関りや繋がりができ、「やってみよう！」と思える安心感がクラスの中にも生まれていくのではないかと感じました。

講習会で学んだことを実際に授業で試してみましたが、「うまくいかないな」と感じることもあります。「大切なのは方法論ではなく、自分なりにどうアレンジしていくかということ」ということを肝に銘じながら、自分自身の授業を高めていきたいと感じる日々です。

1年間、音研のみなさんで高め合っていきましょう！

研修会の様子は、田中先生のホームページにも掲載していただいています。よろしければご覧ください。（<https://yasushige-578.jimdofree.com/>）

